

# 昭和の記憶 写真展 in 武家屋敷

3/1 ▼ 3/21  
10:00AM~4:00PM



## 武家屋敷・十時家住宅（十時邸）

十時家住宅は御城の西側と北側の堀が出会う位置に建つ。居住者及び敷地の広さは、寛政三年（一七九一年）では友清祐太夫（ともきよゆうだゆう）・壹反拾六歩、幕末では戸次太四郎（べっききたしろう）・九畝（せ）拾八歩（じゅうはちぶ）で、それぞれの俸禄は、友清が三人扶持拾石生中合力（せいちゅうこうりき）拾俵（じっぴょう）、戸次が百六拾石であった。

十時家住宅はL字形の平面の主屋（しゅおく）とその南西に続く仏間から成り、主屋は十八世紀後期の建設、仏間は明治期の増築と考えられる。

主屋南端の八畳座敷には床の間と床脇の天袋が並ぶ。柱と長押（ながし）には面皮（めんかわ）が使用されていること、南と東の二面に縁側が設けられていることは他の武家住宅ではみられない。西側の八畳と四畳半は根太（ねだ）天井で、軒桁高（のりけただか）を約一二・四尺（三・七六m）として上階をのせる。座敷と二階家の棟を少し上げて屋根の高さに変化をつけ、切妻（きりづま）に仕上げることも珍しい。



くやながわ市報平成二十年二月一日号

「新・市史抄片」より抜粋

# 示 展 内 パネル 案

## 「昭和の記憶」写真展in武家屋敷

(開催趣旨)

本事業は、平成二十二年三月に策定された柳川市の「柳川市歴史的建造物保存活用基本構想」に基づき、市民や事業者との協働によるまちづくりの中に歴史的建造物の保存活用を取り入れて、地域固有の風情、情緒、たたくまいといった良好な環境（歴史的風致）を維持・向上させ、後世に継承する目的を達成するため、柳川市内でも良好な状態で維持管理されている武家屋敷「十時家住宅（十時邸）」を利活用し、広く市民や観光客に開放しながら、歴史的な価値や保存への関心を深めていただくために開催しています。また、全国的にも昭和初期の写真は戦争により焼失しているものが多い中、当地方では戦火を逃れ、歴史民俗資料としても貴重な写真が多く残されています。今回は、その中で柳川古文書館所蔵の写真パネルを展示していますので、「昭和の記憶」の断片をご鑑賞下さい。



仮装行列



紀元2600年行列 (S15)



柳川中学伝習館



柳川城 (明治5年焼失)



柳川城址城郭開墾之状況 (S.3)



配水塔 (伝習館北)



柳川銀行 (後の福岡銀行)



高畑公園ノ一部 (三柱神社鳥居)



水郷柳河 柳河橋遠望



柳河京町通



九鉄急行電車 (現西鉄)



高畑公園



京町より北を望む



柳川橋



水源地 (磯島)



柳河城址柳城公園ノ一部



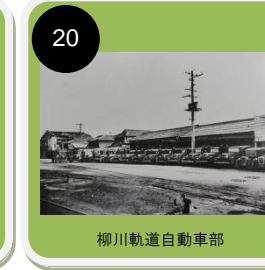
踊り山 (大正時代)



踊り山 (戦後)



柳川軌道柳川駅



柳川軌道自動車部



京町通り (S25~30)



京町 (明治末から大正初期)



京町通り

### — お 願 い —

- ・展示物には手を触れないようお願いします。
- ・敷地内での喫煙は固くお断りいたします。
- ・座敷内は床が弱い場所がございますので、進まれる際はご注意ください。